

県民経済計算 用語集

○県民経済計算

県内で1年度内に生み出された財貨・サービスの流れを「生産」「分配」「支出」の三つの側面から捉える統計。県の経済規模や経済成長率・所得水準などを明らかにすることができる。

○生産・分配・支出

生産：生産活動によって生み出された付加価値という観点からの計測

分配：雇用者や企業に分配される賃金・地代・利潤などの観点からの計測

支出：消費や投資の観点からの計測

なお、この3つは理論上一致する（「三面等価の原則」と呼ばれる）。

○県内総生産

県内の生産活動によって1年度内に新たに生まれた付加価値の総額のこと（国における GDP にあたる）。産出額（売り上げや出荷額）から中間投入額（原材料費や光熱費）を差し引いて求める。なお、この県内総生産の対前年度増加率を「経済成長率」と呼ぶ。

○名目と実質

名目：実際にその年度に市場で取引されていた価格で表された値のこと。国や他県との比較や県内の産業構造などの分析を行うのに適している。

実質：ある特定の年を基準として、名目値から物価変動の影響を取り除いた値。時系列での比較を行うのに適している。

○県民所得

雇用者や企業に分配された付加価値のことで、「県民雇用者報酬（給与など）」「財産所得（利息や株式配当金など）」「企業所得（企業の利益）」から構成されている。

1人当たり県民所得は県民所得を総人口で除した値で、企業の利益も含まれているため、個人の給与や実収入を表すものではない。